



平成24年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成24年11月13日

上場会社名 株式会社セルシード 上場取引所 大
コード番号 7776 URL <http://www.cellseed.com>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 長谷川 幸雄
問合せ先責任者 (役職名) 取締役最高財務責任者 (氏名) 細野 恭史 (TEL) 03-5286-6231
管理部門長
四半期報告書提出予定日 平成24年11月14日 配当支払開始予定日 —
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成24年12月期第3四半期の連結業績(平成24年1月1日～平成24年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年12月期第3四半期	55	△16.2	△696	—	△654	—	△709	—
23年12月期第3四半期	66	50.5	△1,081	—	△1,028	—	△1,038	—

(注) 包括利益 24年12月期第3四半期 △710百万円(—%) 23年12月期第3四半期 △1,055百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年12月期第3四半期	△126.44	—
23年12月期第3四半期	△195.11	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
24年12月期第3四半期	321	73	22.3
23年12月期	743	534	71.5

(参考) 自己資本 24年12月期第3四半期 71百万円 23年12月期 531百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年12月期	—	0.00	—	0.00	0.00
24年12月期	—	0.00	—	—	—
24年12月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成24年12月期の連結業績予想(平成24年1月1日～平成24年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	182	111.3	△880	—	△840	—	△900	—	△160.46

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

24年12月期 3 Q	5,739,174株	23年12月期	5,446,240株
-------------	------------	---------	------------

② 期末自己株式数

24年12月期 3 Q	66株	23年12月期	66株
-------------	-----	---------	-----

③ 期中平均株式数（四半期累計）

24年12月期 3 Q	5,608,713株	23年12月期 3 Q	5,324,934株
-------------	------------	-------------	------------

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外ではありますが、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料2ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
① 再生医療支援事業	2
② 細胞シート再生医療事業	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
資産、負債及び純資産の状況	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
(4) 追加情報	4
3. 継続企業の前提に関する重要事象等の概要	5
4. 四半期連結財務諸表	7
(1) 四半期連結貸借対照表	7
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
四半期連結損益計算書	8
四半期連結包括利益計算書	9
(3) 継続企業の前提に関する注記	10
(4) セグメント情報等	12
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	13

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、世界景気の減速等を背景として、個人消費は概ね横ばいとなっており、回復の動きに足踏みがみられました。

当社グループを取り巻く先端医療・再生医療分野におきましては、厚生労働省の「再生医療の安全性確保と推進に関する専門委員会」において、再生医療技術を安全な医療につなげるための規制や法改正の必要性について議論が始められるなど、日本における再生医療の推進策について会合が開かれました。

以上のような環境の下、当社グループは、資金状況に鑑み全社的な支出抑制を行いながら再生医療支援事業及び細胞シート再生医療事業における活動を推進いたしました。両事業における先行投資を主因として、当第3四半期連結累計期間における売上高は55,460千円（前年同四半期比10,726千円の減少）、営業損失は696,874千円（前年同四半期比384,670千円の減少）、経常損失は654,993千円（前年同四半期比373,707千円の減少）、四半期純損失は709,185千円（前年同四半期比329,772千円の減少）となりました。

セグメントごとの業績は次のとおりであります。

①再生医療支援事業

再生医療支援事業では、全社的な支出抑制に対応する一方で、販売代理店と協力して認知度向上・販売促進活動や温度応答性細胞培養器材の新規商品開発に取り組みました。

以上のような活動の結果、売上高は55,460千円（前年同四半期比10,726千円の減少）、営業損失は11,478千円（前年同四半期比13,284千円の減少）となりました。

②細胞シート再生医療事業

細胞シート再生医療事業では、欧州における角膜再生上皮シートの事業化準備を中心として5つの細胞シート再生医療医薬品パイプラインの研究開発に取り組んでおります。

欧州における角膜再生上皮シートの事業化準備に関しては、平成23年6月に欧州医薬品庁（EMA）宛に提出した角膜再生上皮シート販売承認申請に関する薬事審査への対応を行いました。

その他のパイプラインでは、心筋再生パッチに関する日本特許が成立いたしました。また、共同研究先より発表された食道再生上皮シート臨床研究結果についての論文に基づき、臨床研究の成果に関する報告を開示いたしました。

全社的な支出抑制の下で以上のような活動を行った結果、営業損失は446,896千円（前年同四半期比239,503千円の減少）となりました。

（当該事業は現在、事業化準備段階にありますので、売上高計上には至っておりません。）

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当第3四半期連結会計期間末の流動資産は、前連結会計年度末に比べて436,888千円減少し、279,672千円となりました。これは主に、現金及び預金が330,132千円、有価証券が90,808千円及び前払費用が20,660千円それぞれ減少したことなどによります。

当第3四半期連結会計期間末の固定資産は、前連結会計年度末に比べて14,881千円増加し、41,603千円となりました。これは主に、保証金の差入などにより投資その他の資産が14,881千円増加したことによります。

この結果、当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べて422,006千円減少し、321,276千円となりました。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末の流動負債は、前連結会計年度末に比べて38,382千円増加し、230,307千円となりました。これは主に、前受金が112,325千円増加し、未払金が66,418千円及びその他流動負債の預り金が15,389千円それぞれ減少したことなどによります。

当第3四半期連結会計期間末の固定負債は、前連結会計年度末と変わらず16,984千円となりました。

この結果、当第3四半期連結会計期間末の負債合計は、前連結会計年度末に比べて38,382千円増加し、247,292千円となりました。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末の純資産合計は、前連結会計年度末に比べて460,388千円減少し、73,984千円となりました。これは主に、新株の発行により資本金及び資本剰余金がそれぞれ125,434千円増加したものの、四半期純損失709,185千円を計上したことなどによります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

連結業績予想の修正については、本日平成24年11月13日公表の「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照下さい。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

- (4) 追加情報

第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」（企業会計基準第24号 平成21年12月4日）及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日）を適用しております。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等の概要

当社グループは、継続的に営業損失及びマイナスの営業キャッシュ・フローを計上してきておりますが、前連結会計年度の営業キャッシュ・フローは1,274,380千円のマイナスであり、前連結会計年度末の手元資金（現金及び現金同等物）残高601,136千円は想定される年間営業キャッシュ・フローのマイナス額に比して著しく少ない金額となりました。当該状況により、前連結会計年度末において、当社グループに継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせるような状況が存在しておりました。

当第3四半期連結累計期間におきましては、平成24年5月18日に発表した経営合理化策に基づく全社的な支出の見直し及び抑制を実施しながら、米国Emmaus Medical Inc.（以下「エマウス社」という）からの「米国における角膜再生上皮シート共同開発・事業化契約」（平成23年4月8日締結）に係る契約一時金150万米ドルの受領や野村證券株式会社宛に発行していた新株予約権の行使（行使額面総額250,000千円分）を通じた資金調達を実現いたしました。しかしながら、エマウス社からの「共同研究開発基本契約」（平成23年4月8日締結）に係る契約一時金850万米ドルにつきましてはまだ受領に至っておらず、また野村證券株式会社宛に発行していた新株予約権の行使を通じた資金調達につきましても平成24年5月22日以降行使実績がない状況です。この結果、当第3四半期連結会計期間末の手元資金（現金及び現金同等物）は180,194千円となっており、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が依然として存在しております。

このような経緯を踏まえて、当社グループは当該状況の解消を図るべく下記の施策に取り組んでおります。

① 事業提携等を含めた資金調達交渉

当社グループは、複数の相手方と守秘義務契約を締結して事業提携等を含めた資金調達を目的とした交渉を進めております。当第3四半期連結会計期間末までに具体化したものはございませんでしたが、当社グループはこれらの交渉を通じた資金調達の実現を当該状況の解消を図る上での最優先課題と位置付けて引き続き推進していきたいと考えております。

② 平成23年10月4日に発行した第4回乃至第8回新株予約権を通じた資金調達

当社グループは、平成23年10月4日に野村證券株式会社宛に第4回乃至第8回新株予約権を発行いたしました。当該の新株予約権につきましては平成23年10月4日の発行から当第3四半期連結会計期間末までに累計で350,000千円の行使があり、当第3四半期連結会計期間末時点で未行使額面残額が650,000千円となっております。ただし、平成24年5月22日以降当社株価が新株予約権の行使が可能な水準に至っておらず、同日以降行使実績がない状況です。なお、当該新株予約権行使価額の下限は824.8円であるのに対して、当第3四半期連結会計期間末時点の当社株価（平成24年9月28日終値）は735円でした。

③ 全社的な支出計画の見直し

当社グループは、必要資金が確保できるまでの間支出を最小限に抑える経費計画を策定の上、実行しております。さらに平成24年5月18日には経営合理化策の実施について決定を行い、役員報酬の減額、全従業員賞与の支給見送り、希望退職の募集を実施いたしました。

④ エマウス社との間で平成23年4月8日に締結した「共同研究開発基本契約」にかかる契約一時金の受領

当社グループは、エマウス社との間で「共同研究開発基本契約」、「米国における角膜再生上皮シート共同開発・事業化契約」の2種類の契約書を締結しております。「米国における角膜再生上皮シート共同開発・事業化契約」に係る契約一時金150万米ドルにつきましては、平成24年12月期第1四半期連結会計期間に受領いたしました。一方、「共同研究開発基本契約」に係る契約一時金850万米ドルにつきましては、受領要件である当社グループからの技術移転がまだ完了していないこと及びエマウス社側財務計画の調整によりその受領時期が平成25年12月期となる見通しですが、現時点においては未確定な状況となっております。

当社グループは、上記の各施策を確実に実行することによって継続企業の前提に重要な疑義を生じさせる状況を解消又は改善することも可能であると考えておりますが、いずれも現時点で未確定な部分があり、従って継続企業の前提に関する重要な不確実性は存在していると判断しております。

なお、四半期連結財務諸表は、継続企業を前提として作成されており、継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を四半期連結財務諸表には反映しておりません。

4 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	510,327	180,194
売掛金	11,474	14,444
有価証券	90,808	—
商品及び製品	10,970	9,363
仕掛品	2,767	5,471
原材料	758	720
前払費用	54,389	33,728
その他	35,063	35,749
流動資産合計	716,561	279,672
固定資産		
投資その他の資産	26,721	41,603
固定資産合計	26,721	41,603
資産合計	743,282	321,276
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,267	640
未払金	94,756	28,338
未払法人税等	11,762	13,595
賞与引当金	—	17,730
前受金	48,801	161,127
その他	35,337	8,876
流動負債合計	191,925	230,307
固定負債		
長期前受金	16,984	16,984
固定負債合計	16,984	16,984
負債合計	208,910	247,292
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,198,225	3,323,659
資本剰余金	3,178,225	3,303,659
利益剰余金	△5,791,139	△6,500,324
自己株式	△47	△47
株主資本合計	585,263	126,946
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	△54,015	△55,219
その他の包括利益累計額合計	△54,015	△55,219
新株予約権	3,124	2,256
純資産合計	534,372	73,984
負債純資産合計	743,282	321,276

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成23年1月1日 至 平成23年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成24年1月1日 至 平成24年9月30日)
売上高	66,187	55,460
売上原価	42,635	29,293
売上総利益	23,551	26,167
販売費及び一般管理費		
研究開発費	678,097	402,705
その他	427,000	320,337
販売費及び一般管理費合計	1,105,097	723,042
営業損失(△)	△1,081,545	△696,874
営業外収益		
受取利息	697	47
補助金収入	55,515	34,172
為替差益	—	6,550
その他	1,157	3,081
営業外収益合計	57,370	43,852
営業外費用		
為替差損	3,225	—
株式交付費	1,300	1,837
その他	0	132
営業外費用合計	4,525	1,970
経常損失(△)	△1,028,700	△654,993
特別損失		
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	6,980	—
特別退職金	—	51,034
その他	118	—
特別損失合計	7,099	51,034
税金等調整前四半期純損失(△)	△1,035,799	△706,027
法人税、住民税及び事業税	3,157	3,157
法人税等合計	3,157	3,157
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△1,038,957	△709,185
四半期純損失(△)	△1,038,957	△709,185

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成23年1月1日 至 平成23年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成24年1月1日 至 平成24年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△1,038,957	△709,185
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	△16,707	△1,203
その他の包括利益合計	△16,707	△1,203
四半期包括利益	△1,055,664	△710,388
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△1,055,664	△710,388
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 継続企業の前提に関する注記

当第3四半期連結累計期間（自 平成24年1月1日 至 平成24年9月30日）

当社グループは、継続的に営業損失及びマイナスの営業キャッシュ・フローを計上してきておりますが、前連結会計年度の営業キャッシュ・フローは1,274,380千円のマイナスであり、前連結会計年度末の手元資金（現金及び現金同等物）残高601,136千円は想定される年間営業キャッシュ・フローのマイナス額に比して著しく少ない金額となりました。当該状況により、前連結会計年度末において、当社グループに継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせるような状況が存在しておりました。

当第3四半期連結累計期間におきましては、平成24年5月18日に発表した経営合理化策に基づく全社的な支出の見直し及び抑制を実施しながら、エマウス社からの「米国における角膜再生上皮シート共同開発・事業化契約」（平成23年4月8日締結）に係る契約一時金150万米ドルの受領や野村證券株式会社宛に発行していた新株予約権の行使（行使額面総額250,000千円分）を通じた資金調達を実現いたしました。しかしながら、エマウス社からの「共同研究開発基本契約」（平成23年4月8日締結）に係る契約一時金850万米ドルにつきましてはまだ受領に至っておらず、また野村證券株式会社宛に発行していた新株予約権の行使を通じた資金調達につきましても平成24年5月22日以降行使実績がない状況です。この結果、当第3四半期連結会計期間末の手元資金（現金及び現金同等物）は180,194千円となっており、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が依然として存在しております。

このような経緯を踏まえて、当社グループは当該状況の解消を図るべく下記の施策に取り組んでおります。

① 事業提携等を含めた資金調達交渉

当社グループは、複数の相手方と守秘義務契約を締結して事業提携等を含めた資金調達を目的とした交渉を進めております。当第3四半期連結会計期間末までに具体化したものはございませんでしたが、当社グループはこれらの交渉を通じた資金調達の実現を当該状況の解消を図る上での最優先課題と位置付けて引き続き推進していきたいと考えております。

② 平成23年10月4日に発行した第4回乃至第8回新株予約権を通じた資金調達

当社グループは、平成23年10月4日に野村證券株式会社宛に第4回乃至第8回新株予約権を発行いたしました。当該の新株予約権につきましては平成23年10月4日の発行から当第3四半期連結会計期間末までに累計で350,000千円の行使があり、当第3四半期連結会計期間末時点で未行使額面残額が650,000千円となっております。ただし、平成24年5月22日以降当社株価が新株予約権の行使が可能な水準に至っておらず、同日以降行使実績がない状況です。なお、当該新株予約権行使価額の下限は824.8円であるのに対して、当第3四半期連結会計期間末時点の当社株価（平成24年9月28日終値）は735円でした。

③ 全社的な支出計画の見直し

当社グループは、必要資金が確保できるまでの間支出を最小限に抑える経費計画を策定の上、実行しております。さらに平成24年5月18日には経営合理化策の実施について決定を行い、役員報酬の減額、全従業員賞与の支給見送り、希望退職の募集を実施いたしました。

④ エマウス社との間で平成23年4月8日に締結した「共同研究開発基本契約」にかかる契約一時金の受領

当社グループは、エマウス社との間で「共同研究開発基本契約」、「米国における角膜再生上皮シート共同開発・事業化契約」の2種類の契約書を締結しております。「米国における角膜再生上皮シート共同開発・事業化契約」に係る契約一時金150万米ドルにつきましては、平成24年12月期第1四半期連結会計期間に受領いたしました。一方、「共同研究開発基本契約」に係る契約一時金850万米ドルにつきましては、受領要件である当社グループからの技術移転がまだ完了していないこと及びエマウス社側財務計画の調整によりその受領時期が平成25年12月期となる見通しですが、現時点においては未確定な状況となっております。

当社グループは、上記の各施策を確実に実行することによって継続企業の前提に重要な疑義を生じさせる状況を解消又は改善することも可能であると考えておりますが、いずれも現時点で未確定な部分があり、従って継続企業の前提に関する重要な不確実性は存在していると判断しております。

なお、四半期連結財務諸表は、継続企業を前提として作成されており、継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を四半期連結財務諸表には反映しておりません。

(4)セグメント情報等

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 平成23年1月1日 至 平成23年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 千円)

	報告セグメント(注) 1			調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	再生医療支援 事業	細胞シート再 生医療事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	66,187	—	66,187	—	66,187
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	66,187	—	66,187	—	66,187
セグメント損失(△)	△24,763	△686,400	△711,163	△370,381	△1,081,545

- (注) 1 再生医療支援事業は既に製品を販売して売上高を計上しておりますが、細胞シート再生医療事業は現在、事業化準備段階にありますので、売上高計上には至っておりません。
- 2 セグメント損失の調整額△370,381千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に親会社本社の管理部門に係る費用であります。
- 3 セグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自 平成24年1月1日 至 平成24年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 千円)

	報告セグメント(注) 1			調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	再生医療支援 事業	細胞シート再 生医療事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	55,460	—	55,460	—	55,460
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	55,460	—	55,460	—	55,460
セグメント損失(△)	△11,478	△446,896	△458,375	△238,499	△696,874

- (注) 1 再生医療支援事業は既に製品を販売して売上高を計上しておりますが、細胞シート再生医療事業は現在、事業化準備段階にありますので、売上高計上には至っておりません。
- 2 セグメント損失の調整額△238,499千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に親会社本社の管理部門に係る費用であります。
- 3 セグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当社は新株予約権の行使により、当第3四半期連結累計期間において資本金及び資本準備金がそれぞれ125,434千円増加し、当第3四半期連結会計期間末において資本金が3,323,659千円、資本準備金が3,303,659千円となっております。